

## 公益財団法人日本城郭協会 平成25年度 事業報告

1. 公益財団法人発足記念シンポジウムの開催  
当協会は平成25年公益財団法人として新たなスタートを切ったが、これを記念しての「城郭シンポジウム」を平成26年3月30日に武蔵野大学有明キャンパスにて開催した。奈良大学千田嘉博教授（協会学術委員長）の著書「信長の城」基本テーマとし、午前、午後の2部構成とした。第1部は千田教授、春風亭昇太師匠、萩原さちこ氏の3人によるトークセッション、第2部は千田教授の基調講演のあと小和田哲男理事長、小島道裕国立歴史民俗博物館教授、千田教授、それに司会役の萩原さちこ、横山太一朝日放送アナウンサーも加わって「信長・秀吉・家康の城」のパネルディスカッションを行った。230人超の城郭ファンが参加したが、「大衆性」「専門性」のバランスが取れた良質のシンポジウムと好評だった。
2. 学術専門組織の創設  
公益財団法人として城郭文化の発展・普及を図るための専門研究組織「学術委員会」を創設し、活動を始めた。
3. 教育事業「親子名城見学会」「城の自由研究コンテスト」の強化  
「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は平成14年度からの学校における総合的学習の登場と、体験学習の重視に応じて開始したが、教育関係者・児童生徒から支持をいただき、大きな教育的成果を上げている。平成25年度の「名城見学会」では話題性の高い城（信長の城・岐阜城）で開催するなど運営方法を見直し、「コンテスト」は応募のためのPRを強化したが、応募者数は286点だった。年度末には公益事業報告書を刊行。
4. 「城郭検定事業」の拡大・充実  
生涯学習事業の一環として行っている「日本城郭検定」は本年度5月と12月の2回、東京・大阪など全国6か所で開催した。また準1級のクラスを新たに設けるなど内容の充実をはかった。
5. 「100名城スタンプラリー」の継続・強化  
平成19年度に選定した「日本100名城」と、この名城を探訪するスタンプラリーは大変好評で、3回目の100名城登城に挑戦する方

など 城郭探訪者の増加と文化遺産としての城郭再認識につながっている。本年度も出版社・テレビ局などと連携してこの事業をさらに推進してきたが同時に各城のスタンプ補充体制を強化した。

6. 「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度の向上

「ヨーロッパ100名城」の選定と公式ガイドブックの刊行は社会的な関心を集めたが、社会的認知度を高めるため登城認定証の一層の周知に取り組んだ。

7. 会員・名城登城者間の交流強化と会報・ホームページの充実

会員・名城登城者へのサービスとコミュニケーションの強化を図った。

そのための情報サービスとしての会報「城郭ニュース」の年4回の発行を堅持し、城郭に関する新しい研究成果や話題を提供した。また公益財団法人化に伴いホームページを一新した。また各地区の城博物館やNPOから要望のあったホームページへのリンクを認めた。さらに多様な情報を発信するため協会ツイッターを始めた。

8. 寄付に関する報告

上記公益事業を実施するに当たり、財政的基盤支援のため、会員並びに関係者に初めて広く寄付を募ったところ、多くの寄付が寄せられたこと報告する。